

第1章. アライグマ・ハクビシンについて

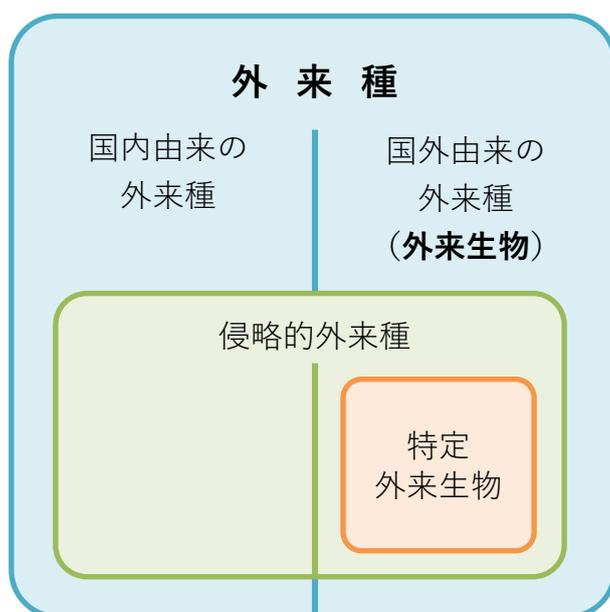
1. 外来種とは

- 外来種**とは、人の影響によって本来の生息地域（自然分布域）から、元々は生息していなかった地域に入り込んだ生物のことです。一方、元々その地域に自然分布していた生物は**在来種**と呼ばれます。外来種は、**国内由来**の外来種と**国外由来**の外来種とに分けられ、「外来生物法」では**国外由来**の外来種を**外来生物**と定義しています。

- 外来種が入り込む過程として、意図的にその生物を導入する場合（**意図的導入**）と、意図せずに侵入させてしまう場合（**非意図的導入**）があります。ペットや家畜の導入、ネズミや毒蛇（ハブ等）などを駆除するための捕食者の導入は前者にあたり、海外からの物資などに付着・混入していた動植物の移入、宿主の意図的導入に伴う寄生動物の侵入は後者にあたります。

- 外来種のうち、生態系、人の生命又は身体、農林水産業等への被害を及ぼす又は及ぼすおそれがあるものを**侵略的外来種**といいます。

- 特定外来生物**とは、外来生物であって、侵略的外来種であるものの中から「外来生物法」に基づいて指定されるものです。特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけでなく、卵、種子、器官なども含まれます。なお、特定外来生物を選定する目安とされている明治期以降の導入か否かという点から、**アライグマは特定外来生物に指定され、ハクビシンは特定外来生物に指定されていません。**



2. アライグマ・ハクビシンとは

*アライグマ (英語名 : Raccoon)



- 学名 *Procyon lotor*
- 分類 食肉目 (ネコ目) アライグマ科
- 原産地 北アメリカから中央アメリカ
- 導入と分布拡大の経緯

カニクイアライグマについて
(参考資料①)

ペット用に輸入された飼育個体が逃げだしたり捨てられたりしたものが国内で繁殖した

- 形態
 - ・体長 (成獣) : 40-65 cm
 - ・体重 (成獣) : 3.5-11.0 kg
- 食性
 - 雑食性で、果実や野菜等の植物質から、小型哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、甲殻類、昆虫類等の動物質のものまで幅広く食べる
- 行動様式
 - ・夜行性で、昼間は樹上のうろ、納屋や家屋、寺社仏閣の屋根裏などの中で休息している
 - ・水辺を好み、河川や用水路、側溝などを移動経路として利用している
 - ・木登りが得意、柱に登る、前足が器用で触覚にも優れる
- 繁殖
 - ・一般的に冬から春先に交尾をし、春から初夏に出産するが、夏以降の繁殖も確認されている
 - ・一度に約 1~6 頭出産する
- 法令等の位置づけ
 - ・「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(鳥獣保護管理法) に基づく
狩猟鳥獣
 - ・「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(外来生物法) に基づく
特定外来生物
 - ・「第 13 次東京都鳥獣保護管理事業計画」における**外来鳥獣**

*ハクビシン (英語名 : Masked palm civet)



- 学名 *Paguma larvata*
- 分類 食肉目 (ネコ目) ジャコウネコ科
- 原産地 東南アジアから中国南東部
- 形態
 - ・体長 (成獣) : 40-60 cm
 - ・体重 (成獣) : 2.0-5.5 kg
- 食性
 - 雑食性で、果実や野菜等の植物質から、小型哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、甲殻類、昆虫類等の動物質のものまで幅広く食べる
 - 特に果実を好む
- 行動様式
 - ・夜行性で、昼間は樹上のうろ、納屋や家屋、寺社仏閣の屋根裏などの中で休息している
 - ・水辺を好み、河川や用水路、側溝などを移動経路として利用している
 - ・木登りが得意、柱に登る、電線を伝い歩きする、8センチメートル四方の隙間にも入り込む
- 繁殖
 - ・一年中繁殖が可能である (年に1回)
 - ・一度に1~4頭出産する
- 法令等の位置づけ
 - ・「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(鳥獣保護管理法) に基づく
狩猟鳥獣
 - ・「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」
(通称「生態系被害防止外来種リスト」)における総合対策外来種 (**重点対策外来種**)
 - ・「第13次東京都鳥獣保護管理事業計画」における**外来鳥獣**